



# COVID-19 感染拡大防止のための 令和3年度活動報告No.13

新型コロナウイルス感染症対策を継続してきた婦人会は、アフターコロナの方向性を見据えて、感染対策を講じて、通年事業をこなしてきました。もちろん令和元年のままでは実施できませんでしたが、熱意をもって会員の交流を続けています。コロナを言い訳にしない婦人会活動を紹介します。

## <徳島県結核予防婦人団体連合会>

徳島県では、「交流芸能大会～三世代交流～」と「徳島県婦人問題調査研究発表大会」という、大きな行事を実施しています。

参加前から参加者・スタッフ全員で、体温測定を各自実施し、体調を整えて大会に臨みました。また、当日の受付では、再度検温・手指消毒を徹底し、分散入場により、蜜にならないよう、心がけました。もちろん会場内はマスク着用をお願いし、発表者のマイクは、入れ替わるごとに消毒を行いました。

配席も間隔をあけて、休憩時間をこまめにとり、換気に注意しました。さらに、会場では、水分補給のみ許可する、各自飲み物を持参していただくなど、感染対策を徹底し、会話を伴う食事などは、禁止といたしました。

その内容は、広報誌「なでしこ」に掲載しています（写真）。

また、過去の活動もホームページに掲載しているので、ぜひご覧ください。

<https://fujinkai-tokushima.com/activity/>

**徳島県 県婦連だより**  
第311号  
2021年(令和3年)3月号

一般財団法人徳島県婦人団体連合会 会長 藤田 育美  
コロナ禍、全国で緊急事態宣言が繰り返されていますが、会員の皆様は元気で過ごしてでしょうか。さて、新しい年が始まりました。婦人会としてのアフターコロナの方向性も少し見えてきましたが、まだまだ先行き不透明な状況が続いています。このような状況下だからこそ、我々は地域婦人会として、町・村・企業・国との連携の場の中で、女性の地位向上に向けた男女共同参画社会の実現、そして様々な課題に取り組む役割がより大切になってきています。

また、婦人会全体の高齢化を憂い、団塊の世代はもう70歳を超えて後期高齢者になりつつありますが、今もなお、後が元気で活動することを求められています。一人ひとりがもう少しずつ健活し、次世代に持続可能な社会を引き継ぐために力を合わせて元気に活動すると同時に健康な日々を一緒に楽しんでまいりましょう。

**令和2年度第41回徳島県婦人問題調査研究発表大会** 開催日：令和2年12月1日(水)  
会 場：あむぎんホール

コロナ禍のもと、感染防止のため検温、手洗いの消毒を実施し、例年の半数以下の参加者で厳密な検温と、検温シート(体温測定記録表)の記入と検温チェックシートを厳格に実施しました。また、徳島県婦人団体連合会と高松県婦人団体連合会が、それぞれの地域に合わせた活動を実施しました。

そして、会場に「with コロナ社会における新たな地方創生の展開」を議題に、飯島麻門知事による講演がありました。

**研究テーマ**  
最新型COVID-19感染防止のためのこれまでの生活を一変させました。また、不要不急の外出の制限が厳格化され、「うつらない、うつさない」などにも思いを馳せる人々の心理が気になります。

最新型COVID-19感染防止のためのこれまでの生活を一変させました。また、不要不急の外出の制限が厳格化され、「うつらない、うつさない」などにも思いを馳せる人々の心理が気になります。

最新型COVID-19感染防止のためのこれまでの生活を一変させました。また、不要不急の外出の制限が厳格化され、「うつらない、うつさない」などにも思いを馳せる人々の心理が気になります。

最新型COVID-19感染防止のためのこれまでの生活を一変させました。また、不要不急の外出の制限が厳格化され、「うつらない、うつさない」などにも思いを馳せる人々の心理が気になります。

**<まとめ>**

- アンケートは、20歳から39歳、40歳から59歳、60歳以上と各年代が均等になるように配布し、回答者は71%が女性、29%が男性の割合でした。
- アンケートという言葉は、アンケートをとり始めた2016年から認知度は年々上がっています。しかし、半数以上の人が興味を持っていないが、5つの懸念事項のうちエコーマーク以外については、異なことがないという人がほとんどでした。
- SDGs(エスディーゼーズ)とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で、世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標です。
- SDGsを知らない人が52%で、今回のアンケートで初めて知ったという人もいました。これからの取り組み次第で認知度は上がると考えられます。

**研究発表を終えて**

新型コロナウイルス感染症対策に充分配慮しながらの研究で、日頃の衛生習慣の大切さや人の思いやりの大切さを学びました。そして会場担当の御礼と深謝の心でよい婦人会活動の展開が果たされた喜びもありました。

また、この研究発表を通して、子どもたちに明るい未来を手渡すために国連に同様の取り組みのありようを考えていければいいと思います。そして今後も、このような社会づくりをめざして婦人会活動を続けていきたいと考えています。

アンケートにご協力いただいた方をはじめ、国のご指導とご支援をいただいた多くの皆様にも感謝申し上げます。

**活動発表を終えて**

「コロナに気づかず講演する阿波市婦人団体連合会」  
令和2年度が始まる前からコロナの状況が厳しくなり色々行事に影響が始め、特に高齢者や子どもとふれあう行事は全部中止となりました。そのような状況の中でも、万全の準備を整えた上で3月3日の活動発表では、その中から、ごみ拾い、花づくり、高齢者訪問、親子体験を盛り込んだ、企画展示セミナー、賞状大会、相談活動、あまびい花づくりを名で発表しました。

各行事とも大変な準備を使い活動には準備、機材等と気を使い非常に感謝の気持ちで取り組みました。しかし、会員一人ひとりの心をつとめて取り組んだ行事は、参加した会員一人ひとりの心に満足感として残っていることと思います。

**「人情まよなか自然豊かな高阿波」**  
高阿波は、海、山、川、自然あふれる風光明媚な地域です。舞の舞、山の幸をうけながら人は、笑顔をお花に暮らしています。

美濃町、牟婁町、海陽町の婦人会連合会では、コロナ禍の中、感染症を驚く恐れ、それぞれ立場で地域に発信した活動を一歩、一歩前進に取り組みしています。舞の舞全体では、地域活性化を目標、各グループで、伝統文化の継承、高齢者などを行政と連携、ながら地域活性化に力を注いでいます。

3月共にコロナを取り越し、婦人会活動が当たり前にできる日まで知事と工夫を取り組んでまいります。

写真 徳島県 県婦連だより「なでしこ」第311号(2021年3月)より